

令和4年度 医師の負担軽減及び処遇改善に関する具体的計画

小豆島中央病院 衛生委員会

計画初年度	項目	取り組み	詳細内容	評価方法	結 果		
					元年度	2年度	3年度
28年度	業務分担	NSTが治療方針を踏まえ、食事の形態について提案	摂食・嚥下について多職種が連携し、個別介入により食事形態を主治医に提案	NST介入患者数	2名	5名	15名
		薬剤の投与量の調節	がん性疼痛及び緩和ケア認定看護師を活用し、ターミナルステージのペインコントロールや便秘患者に対する排便コントロールを行う	介入患者数	1名	該当者なし	3名
29年度		心理的ケアの実施	医師の指示により、臨床心理士による心理カウンセリングを行う	介入件数/患者数	612件/124名	575件/113名	596件/149名
30年度		入院の説明の実施	入院予定の患者に対し、地域連携室において入院説明を実施	実施患者数	127名	46名	46名
2年度		医療クラークの配置	医療クラークを有効に配置し、医師の負担の軽減を図る。また、新規の医師については、電子カルテの操作のレクチャーを行う。	医療クラーク数		7名	8名
3年度		病棟薬剤業務の推進	病棟に専任薬剤師を配置し、従来の薬剤管理指導業務とともに、新たに病棟薬剤業務を推進し、医師の処方支援、適切な情報提供等を通して薬物療法の支援を行う。	病棟薬剤師配置数			6名
3年度		栄養指導の強化	医師と管理栄養士が連携して患者の病状を把握した上で、患者の食生活やライフスタイルをふまえて、具体的で実行可能な食事療法を患者様と一緒に考えて提案する。	栄養指導件数			214件

小豆島中央病院

30年度	医師の勤務体制等にかかる取組	短時間正規雇用の医師の活用	子育て又は介護等の理由により短時間勤務での勤務を可能とする	短時間勤務者数	該当者なし	該当者なし	該当者なし
30年度		日当直業務の負担軽減	土日を中心に、日当直業務の一部を非常勤医師が担当し、医師の負担を軽減する。	常勤医師の1月あたりの平均当直回数	2.4回	1.7回	2.6回
2年度			従来医師が作成していた日当直の割振りについて、案を事務部が代行して作成し、医師はチェックと承認のみを行う。また、連続当直とならないように配慮する。また、手術のある医師については、手術予定日についても配慮する。				
元年度		専門医の雇用	専門的知識を有する分野の診療について、専門医を雇用して対応し、医師の外来診療業務の負担を軽減する。また、診療方針についての指導・助言を受ける。	雇用人数	80名	76名	86名
2年度		院外業務の負担軽減	老人ホームへの巡回診療、診療所での業務の一部を非常勤医師が担当する。	延雇用人数		1名	2名
元年度	子育て中の医師に対する配慮	院内保育所の設置	院内保育所による保育を実施する。土曜日保育も行い、子育て中の医師のニーズに合わせた保育を行う。	利用人数	2名	該当者なし	1名
2年度	他の医療機関との連携	地域の医療機関との連携	地域の他の医療機関との連携を強化することで、紹介数(他院→小豆島中央病院)、逆紹介数(小豆島中央病院→他院)の向上を図る。	紹介数/逆紹介数		1,989件/1,657件	1,952件/1,657件
元年度	その他	医師の確保	民間医局を活用し、従来の枠組みを超えて、医師の募集を行う。	新規採用者数	非常勤医師:2名	非常勤医師:1名	該当者なし

令和4年度 看護師の負担軽減及び処遇改善に関する具体的計画

小豆島中央病院 衛生委員会

計画初年度	項目	取り組み	詳細内容	評価方法	結 果			
					元年度	2年度	3年度	
元年度	業務分担	看護助手の配置	看護助手がベッドメイキング、物品の運搬・補充、病室の清掃等を担当し、看護業務以外の負担を軽減する。	看護助手数	7名	6名	14名	
元年度		介護福祉士の配置	専門的な知識と技術を有する介護福祉士を配置し、介護業務・介護指導を担当する。	介護福祉士数	20名	19名	21名	
元年度		歯科衛生士の配置	歯科衛生士による歯垢除去や噛み合わせなどの専門的な口腔ケアを行う。	介入患者数	412名	430名	357名	
元年度		看護クラークの配置	看護業務の事務的業務を行う。	看護クラーク数	1名	3名	3名	
2年度		技師の活用		看護必要度における看護記録について、リハビリテーション科職員も記録の一部を代行する。	代行するリハビリテーション科職員数		12名	13名
2年度				看護師が行っていた患者の送迎について、診療放射線技師で手の空いている者がいれば代行する。	送迎代行件数		20名	50名
28年度	看護師の勤務体制等にかかる取組	短時間正規雇用の看護職員の活用	子育て又は介護等の理由により短時間勤務での勤務を可能とする	短時間勤務者数	11名	5名	6名	
2年度		多様な勤務形態	多様な勤務形態を導入し、看護職員が勤務しやすい体制を整備。夜勤専従看護師の導入	利用人数		10名	8名	
2年度		非常勤職員の雇用	短時間勤務の非常勤看護職員を雇用し、看護職員の負担を軽減する。	新規採用者数		6名	1名	

小豆島中央病院

28年度	妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮	子育て中の夜勤減免制度導入	産後又は育児休暇から復職した看護職員の夜勤を減免する	減免者数	11名	11名	14名
元年度		院内保育所の設置	院内保育所による保育を実施する。土曜日保育も行い、子育て中の看護職員のニーズに合わせた保育を行う。(平成28年度から開園)	利用人数	14名	14名	12名
2年度	過重労働への配慮	超過勤務の縮小	柔軟な配置転換を実施することにより、部署間のバランスを図り、超過勤務の縮小を目指す。	1人あたりの超過勤務時間数	/	4.2h/月	5.1h/月
2年度		有給休暇取得の推奨	休日が十分に消化できない職員に対しては、休暇が取得できるように周囲がサポートできる体制を作る。	1人あたりの有給休暇取得日数		9.1日/年	10.0日/年
3年度		臨床心理士によるカウンセリング	職場・仕事だけでなく子育て・家庭について悩んでいる職員のため、希望者には臨床心理士によるカウンセリングを実施	カウンター件数/利用者数		153件/30名	
4年度	県事業の活用	助産師出向支援導入事業の活用	助産師の偏在是正を主たる目的とした県事業を活用し、他病院から助産師の出向を受入れる。	出向受入れ人数	/	/	/